

棚田の原風景が広がる、淡路の里山

淡路島 生田村 移住と暮らしのガイド

淡路島北部の小さな集落「生田村」では、新しいむらづくりと若い世代の移住者を支援する取り組みを続けています。昔ながらの風景を守りつつ、変わろうとする村の姿をご案内します。



村と移住者の未来ははじまっています。

美しい風景と、里山を生きる知恵、

困ったときは助け合う家々…

そんな暮らしを大切に守り、子どもたちの声があふれる未来にしていきたい。

このまま村の人口減少を静かに見守るわけにはいかない。

私たちは今、若い世代の移住者さんをお迎えする活動を進めています。

村で暮らす一人ひとりも、移住者のみなさんとの新しい暮らしを楽しみにしています。



移住のご相談は下記まで、お気軽にお問い合わせください

生田地域活性協議会(そばカフェ生田村) 〒656-1604 兵庫県淡路市生田畑152

TEL 0799-70-1478 FAX 0799-70-1479

メール smms23350@leto.eonet.ne.jp



豊かな自然と新しいむらづくりで、ともに未来へ。
はじめまして、生田村です。

生田村は、淡路市の山間部にある人口400人ほどの小さな集落です。

はじめましての方がほとんどですよね。まずは、自己紹介をさせてください。

四季の輝きがまぶしい里山の風景が、ここにある

春は桜の花が空を彩り、棚田の水面がきらめきはじめます。
夏には天然のゲンジボタルが飛び交い、
稲穂が黄金色に輝く秋を迎えると、農家はみな大忙し。
かたわらでは、そばの白い花が風に揺れながら収穫を待っています。
やがて冬になると薪ストーブが赤々と燃え、次の春に備えます。
今でも日本の四季を感じられる里山。それが生田村です。

村総出で取り組む、新しいむらづくり

生田村は、たくさんの「新しい魅力」をつくり続けています。
種まきから収穫まで全戸参加でつくる、本格そば。
秋の実りに感謝して楽しむ、そば花まつり。
農村の暮らしを思い起こさせる、水車の復元。
若い女性の声を取り入れた、ホテルカフェ。
お子さんも収穫体験を楽しめる、だんだんファーム。
生田村の文化財をめぐるウォーキングツアーリズム。
ぜひ一度訪れてみてください。どこかで誰かの笑顔にきっと出会えますよ。

街から車で30分の、通える里山

ここで暮らしながら、島外に通学・通勤する人がいます。
本格そばを目標に都会から通ってくださるファンもいます。
意外と、神戸市から車で30分で着くんですよ。
高速バスの発着数なら淡路島で一番！
街のみなさんでもスイッと来られる、身近な田舎なんです。

うまい蕎麦をゼロから提供。
「そばカフェ生田村」は
地域の人たちの「自分の店」。

淡路市生田地域（通称…生田村）の地域経営の店「そばカフェ生田村」は、ソバの実の栽培からそば打ち、接客、イベントまで、できる限り全戸参加を呼びかけて運営しています。地域の活動は無償になりがちですが、ここはタダ働きではなく一人ひとりに賃金をお支払いしています。おかげさまでそばカフェの経営は右肩上がりです。満10周年を迎えた2020年には、初のボーナスを出すことができました！みんな「自分の店」という自覚とやりがいを持ってくれていると感じます。

そばカフェをはじめとした様々な地域活性の資金の一部は、農水関係の補助金から使用しています。本来は、水利組合の各農家に分配されるはずだったお金を地域のために使うので、みんな腹を割って話し合いながら進めてきました。かつて「何もできない村」と言われた生田村ですが、自分たちの力で活性化に取り組み、より地域の自信につなげていきたいと思っています。

**地域活性に奮闘するも、10年で
100人減。その事実を抵抗する。**

そばカフェ始動から10年走り続けてきましたが、開業当時、約480人いた人口が今では100人も減っていることがわかりました。未就学児はたった一人。危機感が身に染みしました。

この事実を「生田村かわら版」で全戸に知らせ、地域の未来を語るワークショップを呼びかけたのです。「若い人もこんなに」と驚くほどの集結ぶりです。60人もの老若住民が堂々と意見を発表してくれました。あの光景は、一生

心に残るでしょうね。

みんなと未来のイメージを共有するための「生田村人口ビジョン」では、現在370人の人口が30年後330人を割らないことを目指しています。自分たちが立ち上がりなければ村は廃れるのみ。限界集落ではなく、人口減に抗う「抵抗集落」でありたい。本気で活動を続けて、30年後の生田村を私は見届けたいのです。

移住者受け入れの指標は年間1組以上。近年は超過達成し、嬉しいことに子育て世代の家族が増えてきました。生田村は、北淡ICまで車で5分、神戸方面の高速バスは日に80往復と島最多です。通勤・通学の選択肢も意外とあるんですよ。交通の便の良い里山だと、若い方々にぜひ知って欲しいですね。

**年間3万人の来村者が
移住受け入れの「心」を変えた。**

移住してきた人にも、月1回以上そばカフェで働いてもらっています。これはバイトというより顔と名前をお互いに知るため。働きながら自然と新旧住民のコミュニケーションが生まれています。

小さな集落ですが、生田村の人には移住者を「よそ者」と考える心はあまり見られません。それは、そばカフェ、そば花まつり、水車が目を引くホテルカフェ、個人営業の古民家カフェ淡（あわ）、観光農園だんだんファームなどで年間3万人の方々をお迎えし、十数年かけて見ず知らずの人と親しんできた結果なのかもしれません。先日実施したアンケートでも、実に9割もの人が移住者に歓迎の意思表示をしています。

生田村に興味をお持ちの方々へ。地域のみんなはウェルカムです！まずは一度、棚田の原風景と澄んだ空気、ゼロから手作りする蕎麦を味わいにきてください。



生田村・移住者座談会

生田村の魅力は人。
つながりを広げていきたい。

奈良、徳島、東京から生田村にやってきた3組の移住者座談会。
古民家リノベーションが心地いいカフェ&宿「淡（あわ）」にお邪魔して、子どもたちの元気な声があふれる中、それぞれのペースで暮らしを楽しむみなさんにお話を聴きました。移住のきっかけ、理想と現実、生田村のいいところ、そして、これから移住を考えている人に向けて、どんな会話が生まれたのでしょうか。（インタビュー文中は、敬称略）



人と家を通じてできた、
生田村との縁。

上田健造（以下、建造） 太陽と水の豊かな新天地を求めて移住先を探していた。実は、淡路島は違うかな…と思っただけだ。

上田麻紀（以下、麻紀） 生田村の田村さん（地域活性協議会・事務局長）がわがままに付き合ってくれてね。息子の麻造が1ヶ月の時に移りました。

健造 田村さんに空き家を教えてもらって、生田村は棚田も綺麗だし、どんどん引き寄せられて。本当に来てよかった！

佐武研治（以下、研治） 建造には植木屋の腕があって、みんなもいろいろお願いしてるよね。僕らは奈良から移住して、カフェと宿をやっています。5年になるかな。

藤原由美（以下、由美） 私は、昔から淡路島いいなと思って。奈良の菜食レストランの同僚からの縁で、古民家を紹介してもらったんですよね。よくできた素敵な家で、見た瞬間に「店をやろう！」と思えたなあ。

研治 由美は、音楽だけではなく料理も仕事だったので。淡路は食材がしっかりしているし、ウチの前の畑でできたものをすぐ出せる。最短の産直！

竹田剛（以下、剛） よくこんなに綺麗に、リノベーションしてくれました！



研治 劇団の友達と壁を塗り、畳を張り替え、掃除して…。木の家は保存せなあかんよね。建造のところも落ち着く家よね。

建造 ウチの家とここは大工さんが一緒なんです。今も続く地元の工務店！

剛 すごい！僕らは東京がオリンピック開催に盛り上がりはじけた頃に出ようかと。コロナ禍で状況は変わったけど、移住当初はよく東京に行ってたよ。

研治 僕も月1で奈良の家に通ってる。大阪を中心にしたら奈良も淡路も距離は変わらないね。

剛 そうなんです。関東にいたから淡路島のことあまり知らなかったんだけど（笑）。試しに来てみたら、カラーが合うと感じて。息子の耕平を通わせたい森のようちえんも見つかったし。まずは淡路の他の地域の子育て世帯向け団地に入居しました。そこから、建造くんに出会い、田村さんとながついて、すぐ！という感じで生田村に。

イメージしてた田舎との
ギャップは、ある。

剛 春から僕も消防団入るよ。

建造 うわ、よかったあ〜（笑）

研治 今は二人とも隣保長やね。

健造 主に淡路の会報を配ったり、村

の草刈り、そばの栽培、お祭りとかで出番のある仕事。

剛 会計役もしてます！

由美 えらい！

研治 小さい役所のような。地区によっては旅行やお祭りのためにも集金があって、驚いたな。

剛 小さな村の中にも3つの地区があり、それぞれ決まり事が違うって面白いよね。

研治 淡路全体で言うと、意外と「街」になってきているなあ。

由美 移住してきた頃は食べるところもなかった。何もなくていいよね、って思ってたのにね。

剛 たった5年で変わったの？

研治 そう。「いつの間にかビルだらけ」とならないで欲しいな。素朴な良さが消えないように。

剛 暮らしで困ることは特に感じないですからね。コンビニが遠くても「不便」とは思わない。それより環境の良さの方が勝つ。そもそも都会から淡路に来たのに、家が密集してるとか意味ないしね。

由美 不便を求めて来てるもん。便利はもういいかなあと。

剛 もちろん、必要なのは享受しつつ、暮らしの中で自分たちでできることは自分たちで。建造くんの前で偉そうに言えないけど（笑）

建造 もっとと山深い所に住んでたから、

の草刈り、そばの栽培、お祭りとかで出番のある仕事。

剛 会計役もしてます！

由美 えらい！

研治 小さい役所のような。地区によっては旅行やお祭りのためにも集金があって、驚いたな。

剛 小さな村の中にも3つの地区があり、それぞれ決まり事が違うって面白いよね。

研治 淡路全体で言うと、意外と「街」になってきているなあ。

由美 移住してきた頃は食べるところもなかった。何もなくていいよね、って思ってたのにね。

剛 たった5年で変わったの？

研治 そう。「いつの間にかビルだらけ」とならないで欲しいな。素朴な良さが消えないように。

剛 暮らしで困ることは特に感じないですからね。コンビニが遠くても「不便」とは思わない。それより環境の良さの方が勝つ。そもそも都会から淡路に来たのに、家が密集してるとか意味ないしね。

由美 不便を求めて来てるもん。便利はもういいかなあと。

剛 もちろん、必要なのは享受しつつ、暮らしの中で自分たちでできることは自分たちで。建造くんの前で偉そうに言えないけど（笑）

建造 もっとと山深い所に住んでたから、



これから移住する人たちともつながりたい。

剛 淡は、移住者コミュニティになっ
てるね。
由美 そこまでは(笑)でも仲はいい。
「楽しいことないかなあ」「じゃあイベ
ントする？」と。音楽や、上田くんの
餅つきとかね。手作りのお祭りっぽく。
研治 僕らは40年「せいかつサーカス」
というバンドをやっていて、衣食住の
生活とミュージシャンの融合を目指し
ててね。有機的な音楽、食べ物、付き
合い：村づくりにもつながればいいな
と。
由美 いろんな人が作ったモノを持ち
寄って、お金やモノ、労働力と交換す
る。そういうマーケットがきたらいい
いな。○さんの手作りスイーツ、洋
服：とかね。
麻紀 由美さんが引つ張っていつてく
れてるから。みんな得意を生かして、
生業になれば。
由美 お金を払うなら、知り合いにっ
て思うもん。
麻紀 近所の商店にも、地域の人の出
品が増えてるよね。
健造 うちの野菜も出してるけど、高
校生の野菜とかも売ってる。結構、美
味しいんだよ！
麻紀 つながっているからこそ感謝が
深くなる。他の移住者さんとも仲間

だいぶ便利などころに出て来たよ(笑)
海にすぐ行けるし。
由美 ここは島の東側・西側どっちの
海も行きやすいよね。
健造 めっちゃ住みやすいよ。
麻紀 住みやすい！
竹田静絵(以下、静絵) 来る前は
ちょっと覚悟してたけど、地域の方々
と触れ合うなかで、嫌な思いをする
こともなく。逆にもう少し寄って来
てもらえるといいのと思うくらい。
そばカフェで仲良くなったおばちゃ
んは、畑のことを教えてくれるから
嬉しいよ。

麻紀 田舎では改めて名前を名乗って
もらう機会があまりなくて、名前と一
致しないのはちょっと困ってるかな。
みんなは私を移住者って知ってるんだ
けど。こっちは「お顔知ってるのに今
更名前聞けない！」って。
静絵 みんな車移動だからか、外を歩
いていて意外と近所の人に会う機会が
ないもんね。あれ、誰の家かなあ？つ
てなる。

由美 移住前後のギャップといえば、
移住を考えるなら、田舎で自分がど
ういう暮らしをしたいかっていう芯
を持ってないって思うな。例えば、
古民家に憧れてても、すぐ掃除し
て直す覚悟がないと住めない。自然
の厳しさもあって、台風の後には水
の流れが激しかったり、道が少し崩れ

なって、暮らしの中で小さな経済が回っ
ていけばいいな。

研治 あっ！建造、庭の井戸水をポン
プで出して欲しいねん！
由美 ほらこういう風に、得意な人に
お願いしてみる(笑)
剛 建造くんはあちこちで見かけるよ。
よその庭の手入れしてたり、SNSに
アップされた道整備の写真に映ってた
り(笑)
麻紀 忙しくない日がない(笑)
健造 暮らしていけるように、いろい
ろ頑張ります！
麻紀 あと、遊べる果樹園を作りたい。
いつか建物を置いてお茶したり、収穫
体験もできたらな。
剛 僕は都会っ子だから、こっちで初
めて経験することが多くて。家の薪ス
トープの薪の工面とか、少しづつうま
くなっていきたい。10年後に何でも自
分のできるようになってると格好いい
な。
由美 薪なら、うちの木切ってくれて
いいから(笑)
剛 エンジンチェーンソーを買うので、
いつでも！
静絵 コロナ以降、淡路島に住んでる
ことを、羨ましがられるようになった
気がするね。
剛 いい時期に移住したよねと。
由美 宿にもお子さん連れが来て、自
然の中を走り回ってるよ。

たり。その片付けや手入れは誰もやっ
てくれないからな。
健造 ここは土の棚田で崩れやすいし、
軽トラや機械が入れにくいのはしんど
い。太陽がよくあたるだけに草の生え
方がやばいし！
麻紀 「草を刈りながら振り返るとも
う草が生えてる」ってみんな言ってる
(笑)
健造 でも、棚田は野菜が美味しくな
るんだよね(笑)

**生田村のおっちゃんおばちゃんは
カッコイイ**

健造 田んぼしていると、いろんな人が
きてくれて、すぐ助けてくれるんよな。
相談もしやすい。

剛 うちの奥さんが畑をしていると「そ
のクワの使い方あかんぞ〜」って心配
してくれて(笑)

静絵 見守ってくれる(笑)

由美 「そろそろ畑にトラクター入れ
んか？」「はい、お願いします！」と、
手取り足取り。

健造 太陽や山のように、人も穏やか
で優しいよ。いろいろあっても、最終
は笑っている。

静絵 それに、めっちゃすごい斜面を
草刈ってるおばちゃんいるよね！よく
滑り落ちないなあと。
健造 もう超人！

静絵 生田村に興味を持っている人に
は、住民として入りやすいですよ、と
言いたいな。

由美 安心していらっしやい！と

剛 地域の人も、移住者同士も、ちょ
うどいい距離感で暮らしているよね。

由美 それぞれ日々自分たちの仕事か
あるから、普段意外と人に会わないん
よ。

剛 だから、会えると嬉しくなっちゃ
う。そうだから、新しい移住者さんが
来るので、みんなでご飯食べませんか？
由美 いいね！(笑)

由美 草刈機を肩に背負って歩いてる
もんね！
静絵 地域の草刈りで「草刈機持って
いきましようか？」って言ったら「慣
れてへんやろ、みんなプロやからいら
ん」って(笑)うちは刈った草を集め
る係。

由美 集める仕事も大事！

剛 農家の人はなんでも自分ででき
るのでほんと格好いい！機械が壊れても
自分で直しちゃう。子供たちには、そ
ういうのが格好いいんだという価値観
を持ってもらえるといいなあ。
由美 なんでもね、さっと来てささっ
とやっちゃう。

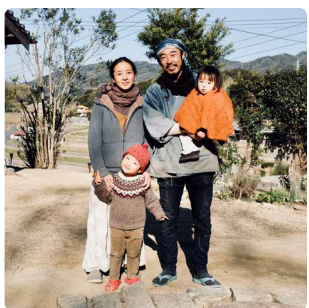
剛 農村の復興は、経済的な面だけじゃ
なく、百姓の生き方として大事にして
いきたいな。

研治 百姓は、百のかげね。1000の
ことができるから百姓なんよ。

麻紀 じゃあ、ウチはまだ3姓くら
いだ(笑)生田村の人にはほんと救
われていて、人って財産だなんて思
う。ウチがここで田畑をできてるの
は、素晴らしいことをウチがやるか
らじゃなくて、村の人たちがいい意
味で見えてくれて、「移住してきた
子が頑張ってるんだ」という噂になり、
とんとん拍子でここで農業できるよ
うになった。人に救われてるなあっ
て実感してる。



淡(あわ)さん
エさん
カ研治さん
宿と佐藤さん
カ研治さん
武研治さん
藤原由美さん
築百年の古民家を蘇らせ、
2016年から「淡」を営むご
主人と女将。バンド「せいか
つサーカス」メンバーとして
もご活躍。音楽や手作り品
の開催などで移住者をつな
ぐ。



上田健造さん
麻紀さん
麻造くん・素和花ちゃん
2018年、徳島県より生田村
に移住。近隣の農地を借りて
農業を営む。健造さんは造園
業の経験、技術を生かし地元
の山林の整備や住民の庭園の
手入れなども請け負う。



竹田剛さん
静絵さん
耕平くん
2017年に東京から淡路島内
の定住促進住宅へ。その後、
戸建ての家を探す中、生田村
の素敵な物件と出会い2019
年に移住。デザイナーとして
地域の情報発信にも携わる。

生田村・新規移住者の声

住む前から不安が消えた! これからはじまる生田村での暮らし

生田村への移住を目前にひかえた、フレッシュな移住者さんにお話を聞くことができました。前ページの最後にある「新しい移住者さん」が、この酒井さんご一家です。今までの会社を辞めずに通勤をする予定の夫と、洋裁の手仕事で地域とつながりたいという妻。生田村で見つける、家族の新しい幸せのカタチとは。(文中は、敬称略)



酒井明洋さん 優美さん 佑植くん 杏緒ちゃん
とことん調べる明洋さんと感性がはたらく優美さんの夫婦の好バランスで、生田村とのご縁がつながり、2021年春に神戸から移住予定。

淡路島への移住を考えたきっかけは？

明洋 ある島に家族で旅行した時の「妻の直感」です(笑)

優美 島を紹介する冊子に載っていたご家族の記事を目にして、「自分たちにもできるかも?」と(笑)その日、境に、田舎で暮らしたいという思いが芽生えたんです。

明洋 僕は神戸育ちなので淡路島に馴染みがあり、ここに住めたらなあという頃には思っていました。結婚して子供ができて、いつのまにかその想いは薄れ、神戸に住み続ける生活設計をしていました。妻から「田舎で暮らしたい」と言われた時は「無理だよ」と。実家、職場、子供の学校、妻は運転免許証がない!とか乗り越えることが多すぎて。でもだんだん、移住のためにはどうすればいい?と考えるようになっていきました。

なぜ、移住先が生田村になったのですか？

明洋 今の仕事を続ける前提だったので、まずは淡路島。そして通勤エリアとして淡路市を考えました。早起きは自分の努力でどうにでもなるけど、交通費とかなからず勤務条件が変わるので、会社側に理解してもらえらるるに苦心しましたね。

優美 高速バスの発着時間から、北淡インター周辺に焦点が絞られてきて。そこで田村さん(地域活性協議会・事務局長)と出会い、生田村を案内してもらったんです。

明洋 NPO法人「島くらし淡路」の堀内さんにも相談しました。住んでいた地名を話すと「それって引越しゃん」といわれたんですよ!「淡路島へは橋に乗って海を渡ってに行く」という遠方のイメージがあったけど、自分の住んでいた場所と同じ交通圏内で調べたら西宮や三田には行けないんですよ。そこで僕の中の移住のハードルが一気に下がりました。

優美 淡路市の「森のようちえん」代表のあじめちゃんのブログを読んで、絶対に会ってみたい!と心を掴まれたことも理由。子どもを体験入園させた帰りにもう「ここだね」って。そこで生田村の先輩移住者の剛さんにも出会えたんです。

明洋 他にも、地元の人が集まりそうな喫茶店に通って「家ないですか?」と聞いたりもしましたよ。もちろん仲良くなっただけです。結果的に家はネットで見つけました。建屋の中にお風呂がないのに露天風呂がある変わった家。130区画ほどの別荘地の物件だけど、ほとんど家が建っていないうちの1つです。

優美 周りに家がなくなって、家から見

える海と山の風景を想像していたので、イメージ通り。今はお風呂をリフォーム中です。

明洋 僕はとことん調べる方なんです。妻は「大丈夫、見つかるから」と言うだけなんです。でも、これまでの妻の直感を信じて悪いようにならなかったの、大丈夫かな(笑)

生田村ではじまる生活について、どんな想像をしていますか？

明洋 正直、心配事はいっぱいだったけど、剛さんたちのような先に移住している方と出会えて、不安は消えましたね。実際に住む前から子ども同士も馴染んでいて、すごくありがたいです。

優美 ほんとに!お手本があるので大丈夫だと思えました。

明洋 それに、地元の方からも移住者を受け入れてくれる雰囲気も感じています。移住を決めてから出会った人がとても個性的で驚いています。絵を描く剛さんをはじめ、農業やクリエイティブな方など、これまでの生活では接点がなかったような人がたくさんいて。僕らは自分の価値観だけで子育てをしてはいけないと考えていて、ここでの暮らしは、子どもにいろんな刺激をくれる先生のような人たちに会えるだろうと思っています。

移住してからやってみたいことは？

優美 大好きなリトアニアリネンを使った洋裁の小物や、ゆくゆくは子供服なども作って、地元や移住者の方に貢献したいです。元々はヘアメイクをしていたのですが、移住する前に「何か技術を持っていないか」と思って教室に通ったんです。

明洋 僕は今までの生活スタイルに固定観念があったけど、これからは不便なだけに削ぎ落とさなきゃいけないことがいっぱいあるだろうし、生き方のものも変わると思っています。例えば、街での買い物って楽しいけど時々でいいかなとか、それより幸せに欠かせないのは新ストロブだとか。そんなふうに、ひとつずつ確かめながら、幸せをカタチづくっていききたいです。

移住を考えている方にメッセージを

明洋 移住計画が順調に進んでいるのは、僕らの力ではなくて運。でも行動するなら「まずは住みたい地域に通っていくつかの接点を持ってみて」と伝えたいです。僕らの場合は「森のようちえん」「島暮らし淡路」そして「地元の人顔を出す喫茶店」でした。そこから地域に親しみ、どこから人がつながって、希望が切り拓かれることがあるんだって実感しています。

神戸市垂水区から車で30分の“通える里山”

神戸方面、徳島方面どちらからも高速道路の「北淡IC」で降りてください。

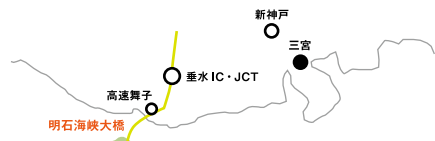
北淡ICからは、車で5分で「そばカフェ生田村」へ。

生田村の散策には、ぜひお車でお越しくださいね。

四季折々の表情豊かな棚田の風景でお迎えいたします。

北淡ICの高速バス発着数は島内随一。

阪神間への通勤・通学も可能な、通える里山です。



北淡 IC
淡路市
生田村
兵庫県淡路市生田
(通称：生田村)

